

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 3 月 31 日	
所属部局・職	アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程前期 1 回生
氏名	横塚 彩

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
新潟県中頸城郡妙高高原町杉ノ沢村笹ヶ峰
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習 (積雪期)
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 3 月 25 日 ~ 平成 27 年 3 月 28 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学笹ヶ峰ヒュッテ、静岡大学杉山茂准教授
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>7 月の無積雪期につづき、今回は積雪期の妙高山でのフィールド実習に参加した。</p> <p>無積雪期の笹ヶ峰ではバスでヒュッテ前まで行く事ができたが、今回は、数メートルの積雪があり、雪上車を利用しての到着となった。ヒュッテへ向かう途中の道では雪かきを必要とする場面もあり、スコップなどを用いて参加者全員で数十メートル雪かきを行った。</p> <p>2 日目、3 日目は野外実習を行い、雪が深く積もったヒュッテ周辺をスキーで滑ったり、ワカンで歩いたりした。今回初めてスキー板にシールをつけて雪の上を歩く経験もした。誰も歩いていない深い雪の中を歩くのは、足が埋まり歩きにくさはあったが、コツをつかむとワカンもスキーもスムーズに歩くことができた。また、2 日目の夜には国立極地研究所の樋口和生さんから、雪崩に関するレクチャーをしていただいた。私自身、樋口さんのレクチャーを受けるまで雪崩に関する知識はほとんどなく、晴れて気温が上がる時に雪崩が発生するものなのだと思い込んでいたが、実際にはどの天候でも雪崩は起きるとのことで、雪山に行く機会が今後あるときには、樋口さんに教えていただいた雪しわなどをポイントにしながら雪崩の危険性がないかを少し気に止めようと思った。</p> <p>3 日目の午後は、2 チームに分かれ、イグルー作りを行った。私のチームには樋口さんがいらっしやっただので、どのように氷のブロックを作ったらよいか、またどのようにブロックを積んでいったらいいかなど、イグルーを作りながらレクチャーしていただいた。</p> <p>私の個人的な感想になってしまうが、関東出身ということもあり、寒い所や冬のスポーツが得意ではないので、今回の積雪期の実習は少し心配があった。しかし雪深い笹ヶ峰での屋外実習は普段足を取られるほど積もった雪に触れる機会はなかなかないため、非常に新鮮であった。また、PWS の L1 履修生全員が同じ日程で実習を受けるのもこれが初めてだったので、食事作りや、食後の懇談を通してより一人一人とコミュニケーションをとることができたと思っている。</p> <p>積雪期のヒュッテで経験した体験を私自身のフィールドワークに、直接的に生かす機会はないかもしれないが、普段の生活ではなかなか行くことのない場所でフィールド実習をすることで、新しいものを発見したり、自然に感動したりする目が重要であると感じた。そのような姿勢でフィールドワークを行う事は、調査地がアフリカであっても、南米であっても、笹ヶ峰であっても同じであると今回の実習を通して強く感じた。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



▲イグルー完成！



▲鳥居が埋まるほどの積雪量



▲笹ヶ峰ヒュッテ内。とても暖かい



▲実習期間は天気に恵まれ、全日程晴れ日和であった

6. その他 (特記事項など)